

令和元年度 市有施設のエネルギー使用量

(1) 市有施設のエネルギー使用量の集計

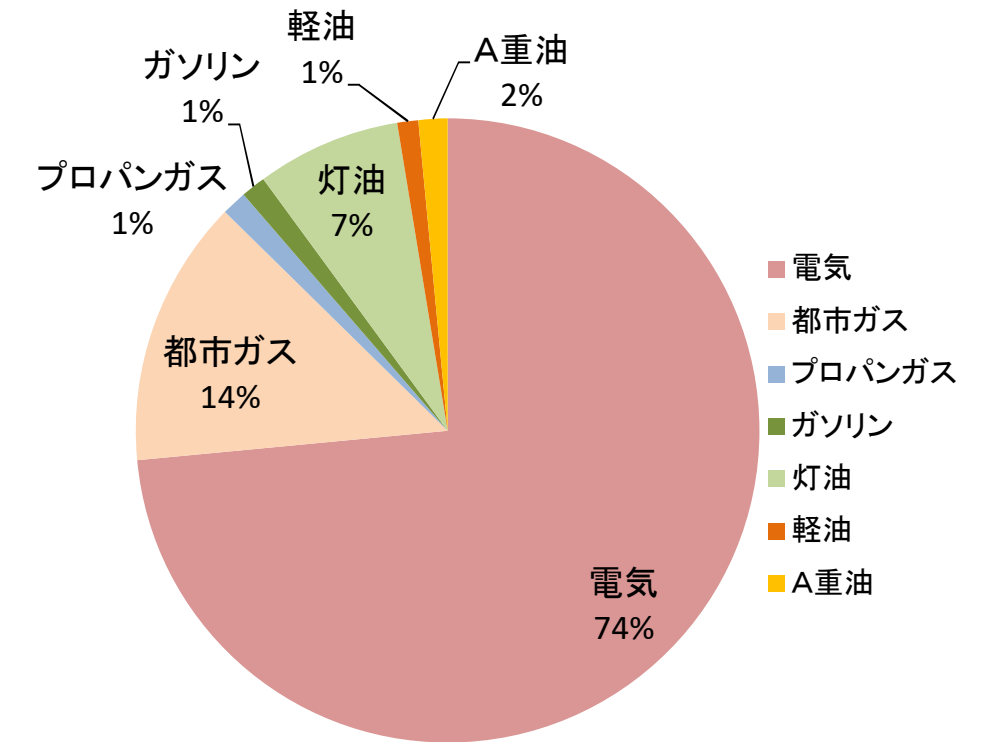
市有施設(庁舎、学校、指定管理者制度導入施設など:1419施設)における電気、ガス、灯油等と、庁用車(568台)のガソリン、軽油等を集計した。

(2) 市有施設のエネルギー使用量の状況

種類別のエネルギー使用量は、原油換算すると以下のとおり。

種類別	令和元年度 報告使用量	令和元年度 原油換算量(kℓ)	平成30年度 原油換算量(kℓ)	対前年度比(kℓ) " (%)	全体に占める割合(%)	主な増減の理由
電気	82,638 MWh	21,257	21,275	△ 18 (△0.1%)	74%	令和元年東日本台風災害により、施設が避難所となったことによる増 保育園の民間移行や、市営駐車場等が廃止となったことによる減
都市ガス	3,606,127 m ³	4,010	4,617	△ 607 (△13.1%)	14%	資源再生センターにおいて、旧焼却施設の廃止に伴い、新たに防爆用蒸気発生ボイラー設備を設置したことによる増 サンマリーンながのの余熱供給が本格化したことによる減
プロパンガス	141,671 m ³	370	407	△ 37 (△9.1%)	1%	保育園の民間移行及び暖冬による給湯器の利用減
ガソリン	420 kℓ	375	381	△ 6 (△1.6%)	1%	暖冬による除雪機の使用減
灯油	2,285 kℓ	2,164	2,224	△ 60 (△2.7%)	7%	松代荘の改修事業及び旧焼却施設の廃止による減
軽油	318 kℓ	309	180	129 (+71.7%)	1%	スキー場で人工降雪機の稼働が増えたこと及び小学校のエアコン用ディーゼル発電機の設置による増
A重油	410 kℓ	413	396	17 (+4.3%)	2%	令和元年東日本台風災害により、東和田運動公園総合運動場が避難所となったことによる増
合計		28,898	29,480	△582 (△2.0%)	100%	

令和元年度 市有施設の
エネルギー種類別構成比(原油換算)



(3) 市有施設のエネルギー使用量(原油換算)の推移

令和元年度までの市有施設のエネルギー使用量(原油換算)の推移は以下のとおり。

年度	使用量 (長野市民病院を含まない)
H27	29,542 kℓ
H28	28,674 kℓ
H29	29,262 kℓ
H30	29,480 kℓ
R1	28,898 kℓ

(kℓ)

市有施設のエネルギー使用量(原油換算)の推移

